

様式2

平成27年度自己評価表【年度末】

鳥取県立倉吉西高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	(1) 心身ともに健康な自立した社会人にするために、体育・徳育を重視し基本的な生活習慣を確立させる。 (2) 問題解決過程を重視した授業を構築し、学習意欲を高める。 (3) 試行実践の場を活用することにより論理的思考力・問題解決能力・コミュニケーション力を高める。 (4) 社会貢献の観点に立った進路指導を展開する。	今年度の重点目標	(1) 良き生活習慣の確立 (2) 学ぶ意味を理解させる授業の構築 (授業改革の深化) (3) 人間力を高める生徒指導
-------------------	---	----------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 (3) 月			
評価項目	具体的項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
良き生活習慣の確立	①爽やかな挨拶が出来る	○教務室などの出入りや廊下での挨拶は概ねできている。 ○添削など指導を願う際、相手(教員)の都合などに留意しながら願い出ることができる生徒が増えた。 ▲敬語で話せない生徒が少数いる。 ▲挨拶の声が小さかったり、気持ちの入ったものになっていない生徒がある。 ▲挨拶をしない生徒へ職員が注意をすることが少ない。	①校内・校外を問わず、自然に自分から心のこもった挨拶ができる。また、相手の状況に応じた適切なコミュニケーションがとれる。	①-1 挨拶することの意味をSHR、授業、集会、部活動等の機会をとおして適宜生徒に伝え、学校全体での意識をあげる。 ①-2 教員から率先して挨拶を行い、お互いの挨拶を習慣化するとともに、挨拶できていない生徒に対して、その場での徹底を全職員が意識して行う。 ①-3 生徒会執行部を中心にして、生徒が互いに挨拶を交わす機会を増やす。	①-1◎校内で自分から挨拶する生徒はS3、S2生は以前から多く、継続されている。S1生も入学当初よりも自分から挨拶できる生徒が増えている。 ①-1○1,2集会時の挨拶も向上してきている。 ①-1△声小さかったり、機械的な挨拶が見られる。関わりのない教員には挨拶しない生徒がいる。 ①-3○朝の挨拶運動に生徒会執行部の生徒も参加した。	B	①-1挨拶の励行と指導の継続。 ①-1ボランティアを通して大人と接する機会を増やし、社会性を身につけさせる。 ①-1ステージを超えて教員と生徒が接する行事・企画を考え、教員が多くの生徒と関わる場面を増やす。
	②身の回りの環境を整える(服装、清掃)	【服装】 ○夏服の下シャツや冬服の下からセーター等を出す生徒は少なく、ほとんどの生徒が守れた。 ○ボランティアにおいてふさわしい身だしなみやマナー・礼儀が守れた。 ▲一部の生徒でスカート丈について指導が必要であった。 【清掃】 ○教室のゴミの分別状況も良好であり、ゴミの量自体が昨年度に比べ少ない。 ▲清掃の取組は全体的に意欲的であるが、指示されないと動けない生徒がいる。 ▲部室のゴミの分別が不十分である。 ▲ゴミの持ち帰りが徹底できていない。 ▲清掃時間外で美化に努める生徒が少ない。	【服装】 ①ほとんどの生徒が正しい制服の着方をしている。 ・夏服: シャツだしをしない ・冬服: セーター出しをしない ・男子: スポーンを下げない ・女子: スカートの丈の長さを守る	【服装】 ①継続的に全体指導を行うとともに、服装が乱れている生徒には、その都度正すよう指摘する。指導にのりにくい生徒については、多くの教職員が関わり指導を徹底するとともに、保護者の協力をあおぎ、改善させる。	①○服装検査の実施および日常の指導により、概ね良好である。 ②-1△清掃が不十分な箇所がある。 ②-1△生徒によって、清掃場所への移動・取り組みに差がある。 ②-2○指示がなくても進んで清掃できる生徒が多い。 ②-3△ごみの使用量・変化の状況を受けた具体的な改善の取組みが行えていない。 ②-3△自ら進んでごみを拾う生徒が少ない。 ②-4○定期的に部室清掃を行い、部室ゴミの管理はよい。 ②-5△教室後ろのロッカーの荷物が整理できていない。 ②-7OS1及びS3で地域清掃LHRを実施した。 ②-8△美化活動に関する生徒会主体の活動はなかった。	B	①服装の乱れに気づいたときに、速やかに指導する。 ②-1これまで通り清掃場所はローテーションさせる。クラス担当の教員もできる範囲で指導区域を広げ、複数箇所を指導できるようにする。 ②-2役割分担、声かけ等で短時間に要領よく清掃する意識をもたせたり、生徒が主体的に取り組めるように指導していく。 ②-3気づいた時にごみを拾うことを推奨していく。 ②-5教室ロッカーの整理整頓を日常的に指導し掃除の意識につなげる。
	③時間を意識し、今、何をすべきかを考えて行動する	【時間】 ○遅刻について随時指導を行った結果、全体的に遅刻者は少なかったが、遅刻者目標達成には至らなかった。(一人年平均1.3回) ○全校集会の集合時間は守れた。 ▲ステージによっては、特定の生徒の遅刻が目立ったり、年度目標に至らないステージがあった。 ▲4点固定を実践している生徒に限られている。 ▲授業始業の意識が低く、始まってから授業の用意ができていない生徒がいる。 ▲部活動引退後、平日においては受験生として安定した学習習慣を構築できるものも増えたが、休日においては、家庭において望ましい学習習慣が構築できない生徒が多数あった。(S3) 【提出物】 ○提出物が9割以上の生徒が期限内に提出できている。 ▲期限内に提出できない生徒は固定化されている。 ○ミッタシステムが提出物の保護者への周知に有効であった。	【時間】 ①遅刻をしないなど、時間を守る大切さを認識し、規則正しい生活を送ることができる。 【遅刻防止の目標】 回数 一人年平均1回以下 ②4点固定を日常的に実施するなど、生活リズムが整い、学習習慣が確立している。	【時間】 ①-1 遅刻数など、生徒状況を常に把握し、保護者との連携を密にしてタイムラグのない指導を心がける。 ①-2 遅刻を繰り返す生徒には、その都度声かけをし、家庭にも連絡を取るなど、生活の改善を促す。 ②-1 4点固定の定着を図るため、「生活の軌跡」等で生徒の生活を検証し、面談指導等を通して指導する。 ②-2 授業の準備をしてから始業を待つことを徹底し、時間を守る意識を高める。 ②-3 携帯電話等の使い方が適切なものとなるよう、保護者との連携を密にする。	①-1◎遅刻回数は少なく、一人年平均1回を下回った。 【遅刻回数: 420回】 ※1月まで【一人あたり0.98回】 ①-1○遅刻者、ギリギリに登校する生徒は固定化している。 ②-1○生活自体は落ち着いている感はある。時間を意識している度合いは高まった。 ②-1△4点固定、携帯の使用方法などを含めた生活リズムの固定化について保護者説明会などで繰り返しお願いしているが、十分でない。 ②-2◎集会などの集まりは良いが、△授業前に準備ができていない生徒がみられる。 ②-3△「今何をすべきか」を考えられていない生徒がいる。勉強時間と睡眠時間の減少など生活の乱れが懸念され、その原因の一つにスマホの使用時間が長いことが考えられる。 ③-1,2○提出物は概ね良好だが、未提出常習の生徒が一部みられる。	B	①-1遅刻者へ継続した指導を行う。 ①-1遅刻が多い一部の生徒に対してはステージや全校の教員が当たってその都度指導することを継続していく。 ②-1帰宅時間を固定することによって家庭学習時間を一定に保つ。 ②-2時間を守る意識を持たせる指導を継続し、学校では予鈴を意識した行動を促す。 ②-3スマホは中高連絡会や他校などと協力・連携し、歩調を合わせた指導を行う。 ③ミッタシステムの活用をさらに充実させる。

評価項目	具体的項目	現 状	目 標 (年度末の目指す姿)	目 標 達 成 の た め の 方 策	経 過 ・ 達 成 状 況	評 価	改 善 方 策	
学ぶ意味を理解させる授業の構築(授業改革の深化)	① 思考力、判断力、表現力を高める	○生徒が主体的に授業に向かう姿勢は全学年で向上している。 ○生徒に発言を促したり、論述する授業を心がけており、一定の成果は上がってきている。 ▲課題・小テストの準備と部活動に時間を費やし、プラスαの活動ができていない。 ▲選択授業が多く、自由に発言する雰囲気を作ることが難しい。	①生徒が目標を持って主体的に授業に取り組み、論理的に自分の考えを表現することができている。 ②学びの過程を大切にしたい学びあいが、どの授業においても日常的に行われている。	①授業で意識的に表現活動を取り入れたり、記述・論述する機会を十分に与え、論理的に思考する習慣をつけさせる。 ②教科会の充実、校内研究授業の継続及び充実、先進校の視察をとおりて授業研究を充実させる。	①○生徒自身が考える機会が増えるなど、授業に対する取組みは年々向上してきているが、△指示がないと動けない生徒が多い。 ①○生徒が発言したり、表現することへの抵抗は少なくなっている。 ②○校内研究授業は、教科を超えて全ての教員が参観している。また、授業研究会も活発に議論が交わされており、研修の成果が授業に活かされつつある。	B	①授業や自習時間を利用して、自学自習のやり方を指導する。 ②教科を越えて授業を参観する校内研修の今の形態を今後も継続していく。	
	② 学ぶことの意味を理解し、主体的に学ぶ意欲を高める	○S3の家庭学習時間は7月までは少ないが、その後は学習会や大山合宿を通し、学習が軌道に乗ってきている生徒も多数みられ、2学期からは、家庭学習時間は平均5時間以上確保した。 S3:総体以降5時間以上の生徒55.7% ○鳥取大学のオープンキャンパスで大学での学びをイメージできた。 ○S3大山勉強合宿に95(149名中)名が参加した。 ○国公立一般試験出願数延131名(前年88名)で、最後まで受験に向かう生徒が多くなった。 ○テスト前に勉強用プリントによる工夫で得点率の上がった科目がある。 ▲S1・2の家庭学習時間が少ない。 S1:2時間以上の生徒24.3% S2:2時間以上の生徒20.5% ▲生活の軌跡を利用して、自分の生活を見直そうとする生徒に限られている。 ▲一部で将来の目標が見出せず、学習に結びついていない。 ▲課題の提出状況は概ね良好だが、学力向上に結びついていない。	①学習目標を明確に持ち、積極的に学習している。 ②身近な先輩の体験談を通して学ぶことの必要性を理解し、主体的に学んでいる。 ③授業を中心に予習、復習を行い、一定の家庭学習時間が確保できている。 【家庭学習時間目標】 S1・S2:2時間以上の生徒が50%以上 S3:5時間以上の生徒が50%以上 ④課題の意味を理解し、課題提出状況が95%以上となっている。	①年度初めにその教科を学ぶ意味や目的を明示するとともに、各授業においては単元観と単元目標を提示する。 ②上級生やOB、OGIによる講話の機会をとおりて、学ぶことの意義を考えさせるとともに、自主性が高まるよう刺激する。 ③生活の軌跡を活用して、面談をとおりて家庭での学習習慣の指導を行う。 ④課題提出は生徒個々の理解度の把握であることを教員が共通認識し、「出した出さない」の評価にとどめない。	①△学習時間はS1が目標時間を達成した時期も多いが、内訳をみると個々にも教科的にも偏りがある。 ②○卒業生の講話は生徒、保護者とも好評である。また、S3生の話はS2保護者会で好評であった。S2、S1生への卒業生の話は今後年度末までに予定されている。 ③△学習習慣の定着は生徒による個人差が大きい。 【家庭学習時間2時間以上】 S1:60.0% S2:22.0% 【家庭学習時間5時間以上】 S3:23.9%(ただし、7月以降) ④△【課題提出状況】 90.7%(国、数、英、理、地公、保体)	C	①1日の学習時間の必要性、特に教科時間の固定を意識させる指導を行い、徹底させる。(教科時間の固定) ④不得意科目の克服を意識付けさせる指導を継続して行う。	
人間力を高める生徒指導	① キャリア教育の充実 ・チャレンジグループ活動を基軸とした生き方探求	【チャレンジグループ活動】 ○チャレンジグループ活動での社会人の講演により進路意識を持たせることができた。 ○チャレンジグループ活動の個人研究の進捗状況をこまめに確認し、研究に対するアドバイスを行うことで活動の充実と生徒の意欲を喚起した。 ○進路講演会を通して生徒や保護者に最新情報を提供した。 ▲社会的知識が不足、社会に対する関心が希薄な生徒が多い。 ▲教員にチャレンジグループ活動に取組むための余裕がない。	【チャレンジグループ活動】 ①自分自身が社会の一員であるという自覚を持っている。 ②将来を意識し、上級学校における学びに向けて、積極的に考え行動している。 ③チャレンジグループ活動をとおりて、自らの進路を明確にし、将来、社会に貢献できる力を身につけている。	【チャレンジグループ活動】 ①各種ボランティア活動への参加を奨励する。ボランティア専用の掲示スペースを設け、計画的に参加を促す。 ②オープンキャンパスの意義を説明し、主体的に参加する姿勢を育てる。 ③-1 卒業生や有識者を招聘して、インプットを重視した講演会を行い、視野を広げたり考えを深めていく。 ③-2 チャレンジグループ活動の主幹となる分掌を設け、基本的な活動計画を策定し、活動実績と継続性を高める。	①◎本年度も多くの生徒がボランティアに積極的に参加した。ボランティアに参加する生徒は、その活動をとおりて何かを学ぼうとする姿勢が感じられる。 【ボランティア参加延べ人数 292人】 ②◎鳥大・鳥大オープンキャンパスには多くの生徒が参加した。また、参加者の意識も高く事前事後の提出物もきちんとしていた。 ②◎S1の鳥大オープンキャンパスも好評で大学への関心が高まった。 ③-1△おとなしい生徒が多く、自ら進んで社会と関わる生徒が少ない ③-2○チャレンジグループ活動はステージ主任が連携でき、年度をまたいだ計画性、継続性のある取組になりつつある。 ④○公立鳥取環境大学での講義、岡山操山高校のリーダー生徒との交流などバイオニアホーム育成の企画により生徒のリーダー性や学校牽引役としての意欲が向上した。 ⑤-2◎図書館はS3生のチャレンジ活動での利用は多い。 ⑥-1◎西高祭をはじめ生徒会活動は、多くの生徒が計画的、主体的に取り組めた。	B	①ボランティア掲示板を活用し、年間計画を掲示したり募集案内に限らず写真掲示などを通して広報活動にも利用する。 ②鳥大、鳥大のオープンキャンパスの意識付けを今後もしっかりしてのぞむ。 ③-2CG委員会(仮称)を設置し、3年間の指導計画などを検討する。 ③-2S3は、CG担当者とS3担任との連携を密にとり、内容を進路指導に役立てる。 ④次年度担当者への引き継ぎや、ノウハウの継承ができていないため、前年度の引き継ぎ資料の作成を3月中に行う。 ⑥生徒がさらに計画的、主体的に取り組めるように、行事の企画・運営のノウハウを確実に引き継ぐ。	
		【バイオニアホーム】 ▲バイオニアホーム企画の計画が遅れたため、一部夏休みを活用できなかった。	【バイオニアホーム】 ④学校におけるバイオニアとしての自覚を持ち、自主的・主体的に学校行事に取り組んでいる。	【バイオニアホーム】 ④バイオニアホーム育成のための企画を早期に計画し実行することで、バイオニアホーム生としての自覚を高めさせる。	③-1△おとなしい生徒が多く、自ら進んで社会と関わる生徒が少ない ③-2○チャレンジグループ活動はステージ主任が連携でき、年度をまたいだ計画性、継続性のある取組になりつつある。 ④○公立鳥取環境大学での講義、岡山操山高校のリーダー生徒との交流などバイオニアホーム育成の企画により生徒のリーダー性や学校牽引役としての意欲が向上した。 ⑤-2◎図書館はS3生のチャレンジ活動での利用は多い。 ⑥-1◎西高祭をはじめ生徒会活動は、多くの生徒が計画的、主体的に取り組めた。	B	①PTAや尚操会会員との交流を通して、大人の中で育つ経験を積ませることも検討する。 ②企画事業の計画性と継続性を向上させる。 ③生徒も挨拶等校内のマナー向上の取り組みを実施していく。	
		【図書館活用】 ○フィールドワーク関西の事前活動として図書館を活用して情報収集し見学の視点を明確にできた。 ○県立図書館・博物館の見学を実施し、進路や文化活動の視野を広げた。	【図書館活用】 ⑤氾濫する情報から必要なものを選択し、教育活動に役立てている。	【図書館活用】 ⑤-1 新聞や図書館の蔵書の有効活用をはかる。 ⑤-2 授業での図書館活用や図書館企画を推進する。	①-1 県外を含めた社会や地域の情報を効率よく収集し、活用させる。 ・朝日新聞記事データベースの活用。 ・県内や地域に関する図書、全国各地の町おこし資料等の活用。 ①-2 地域の小学生、中学生を対象とした学習指導をボランティアで実施。 ②-1 地域振興に関する講演会をとおりて、地域の実態や課題を理解する。 ・チャレンジグループ活動の取組として実施 ②-2 県内の遺跡や伝統建造物、市役所等を訪問し、地域の歴史や伝統品を調査探求することで、地域の良さを再発見する。 ・チャレンジグループ活動の取組として実施 ③-1 図書委員による県立図書館、県立博物館視察訪問。 ・地域の文化、情報発信の拠点に学ぶ ③-2 高校生さわやかマナーアップ運動期間を中心に、生徒・職員による地域の方と合同で挨拶運動の実施。	①-1○図書館展示は好評であり、生徒は地域の理解を深めた。 ①-2○ボランティアに参加する生徒は、非常に意欲的であり活動を通して学ぶ意欲が感じられる。また、社会と係る中であいさつ等、大人としてのマナーを身につけつつある。 ②-2○チャレンジグループ活動を生徒個人で見ると、フィールドワークで実際に現場を訪れて調査する生徒が増えている一方で、グループ全体として地域に向かう活動は少なく、活動が単発なものもあり、生徒の活動としても十分に積みあがっているとは言えない。 ③-2◎生徒会執行部の生徒が挨拶運動に参加した。	B	①PTAや尚操会会員との交流を通して、大人の中で育つ経験を積ませることも検討する。 ②企画事業の計画性と継続性を向上させる。 ③生徒も挨拶等校内のマナー向上の取り組みを実施していく。
		【その他】 ○生徒会行事の企画・運営は、生徒が主体的にできるようになってきたが、学習などその他の取り組みまで及んでいない。	【その他】 ⑥生徒会活動(西高祭・球技会等)をとおりて、生徒が何事にも主体的にかつ協力して取り組んでいる。	【その他】 ⑥-1 生徒自身の手で計画的、主体的に行事の企画・運営を行える環境を整える。 ⑥-2 行事の実施要項を生徒自身が作成し、継続性を高めさせる。	①-1 県外を含めた社会や地域の情報を効率よく収集し、活用させる。 ・朝日新聞記事データベースの活用。 ・県内や地域に関する図書、全国各地の町おこし資料等の活用。 ①-2 地域の小学生、中学生を対象とした学習指導をボランティアで実施。 ②-1 地域振興に関する講演会をとおりて、地域の実態や課題を理解する。 ・チャレンジグループ活動の取組として実施 ②-2 県内の遺跡や伝統建造物、市役所等を訪問し、地域の歴史や伝統品を調査探求することで、地域の良さを再発見する。 ・チャレンジグループ活動の取組として実施 ③-1 図書委員による県立図書館、県立博物館視察訪問。 ・地域の文化、情報発信の拠点に学ぶ ③-2 高校生さわやかマナーアップ運動期間を中心に、生徒・職員による地域の方と合同で挨拶運動の実施。	①-1○図書館展示は好評であり、生徒は地域の理解を深めた。 ①-2○ボランティアに参加する生徒は、非常に意欲的であり活動を通して学ぶ意欲が感じられる。また、社会と係る中であいさつ等、大人としてのマナーを身につけつつある。 ②-2○チャレンジグループ活動を生徒個人で見ると、フィールドワークで実際に現場を訪れて調査する生徒が増えている一方で、グループ全体として地域に向かう活動は少なく、活動が単発なものもあり、生徒の活動としても十分に積みあがっているとは言えない。 ③-2◎生徒会執行部の生徒が挨拶運動に参加した。	B	①PTAや尚操会会員との交流を通して、大人の中で育つ経験を積ませることも検討する。 ②企画事業の計画性と継続性を向上させる。 ③生徒も挨拶等校内のマナー向上の取り組みを実施していく。

○:改善が見られ、良好な状況

▲:今後、改善が必要な現状

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

[90%] [80%] [60%] [40%] [30%]